

南加賀 狛犬 マニアックス



狛犬のルーツはスフィンクス!? 狛犬マニア垂涎の南加賀の狛犬たち。

写真・文 タカヤナギユタカ

あちこちの神社で見ることができ
る狛犬のルーツは、はるか遠く古代オリ
エントにまで遡ることができ、エジプ
トのスフィンクスが狛犬の祖先なのだ
とか。近所の神社で良く見かける狛犬
からスフィンクスは想像しにくい、左
のページの狛犬の頭(顔)を見てもら
えば、狛犬のルーツがスフィンクスに
あることも納得できる。

紀元前6000年頃、エジプトやイ
ンドでは強さの象徴としてライオンの
石像が創られていて、それがシルクロ
ードを経由し中国から日本へ。沖縄で
はシーサーに、日本では狛犬、唐獅子と
なった。

平安時代、狛犬は宮中において天皇
の守護獣として玉座の前に置かれたり、
また御簾が風で乱れないようにする「重
し」として、当初は木製の狛犬が置かれ
ていたようで、正確には「獅子・狛犬」と
呼ばれた。獅子は阿像で口を開き、角な
し。狛犬は吽像で口を閉じ、角がある。

阿は口を開いて最初に出す音、吽は
口を閉じて出す最後の音。そこから、そ
れぞれを宇宙の始まりと終わりを表す
言葉とされ、これを「阿吽」と呼ぶ。梵語
(サンスクリット語)「aum」の音写で
あり、「アーメン」と同じ語源なのだ
か。

狛犬は想像上の神獣、そして獅子(ラ
イオン)が日本に入ってきたのは明治
時代というから、狛犬を創った人たち
は、想像力をフルに発揮して、狼のよう
な狛犬、熊のような狛犬、怪物のような
恐ろしい顔の狛犬、また何だかユーモ
ラスで愛嬌のある狛犬など、多様な狛
犬を生み出した。

第二次大戦後は、愛知県の岡崎市を
中心に、機械彫りによる画一化された
大量生産の狛犬が作られるようになり、
狛犬の個性は失われていく。最近では
国産の狛犬はほとんどなく、他のあら
ゆるモノと同様、中国産、韓国産がほと
んどらしい。

長い歴史を持つ狛犬だけに、全国に
はかなりの数の狛犬ファンというが、
マニアが存在して、本も何冊か出版さ
れている。そして、南加賀はそのマニア
にはたまらない、珍しい狛犬の宝庫な
のだ。

狛犬は高麗犬。
小松は高麗津。
古代、北陸は
大陸文化の玄関、
窓口だった。

ではなく高麗人と呼び、「高麗人参」は
その名残り。

ちなみに、石川県の小松市の「小松」
の名の由来は、一般的には花山法皇の
植えた松にちなむとされることが多い
けれど、実は「高麗津(高麗人がたどり
着いた港)」「こまつ」「小松」となっ
たのではないかという説もあるようだ。

北陸は、紀元前から中国や朝鮮半島
の文化の影響を色濃く受けていた。福
井県から新潟県に至る北陸地方は越
国と呼ばれており、そこから越前、加賀、
能登、越中、越後と分かれる。越とは紀
元前の中国の春秋時代にあった越国が
ルーツだという説があり、中国の越国
が攻め滅ぼされた時に、海を越えて日
本にたどり着いた人が多く住んだ地方
が越と呼ばれるようになったのだとか。
(ちなみに中国の越国から南方に逃げ
た人々が多く移り住んだのがのべトナ
ムで、だからベトナムを漢字で南越と
書くのだそう。)

さて、では何故中国、朝鮮半島から海
を越えて日本の「北陸」地方へ多くの人々
が逃れてきたかと言うと、航海には目
印が必要で、高い山は格好の目印。それ
が加賀の白山や富山の立山であったら
しい。

全国に2000社あると言われる白

下の狛犬は小松市の串茶屋民族資料
館に保存されている高さ20センチほど
の小型の石造狛犬。それにしても何と
もスフィンクスの横顔に似ているでは
ないですか。

ところで、狛犬という名称だが、一説
によると狛犬の狛とは、朝鮮半島に10
世紀から14世紀まで存在した朝鮮半島
の国家、高句麗(高麗)がその由来だと
言う。江戸時代まで日本人は「朝鮮人」

